

令和5年3月定例会

予算委員会総務分科会 会議録

3月14日（火）

防府市議会

予算委員会総務分科会会議録

- 日 時 令和5年3月14日(火) 午前10時 5分
○場 所 議会棟3階全員協議会室
○付議事件 議案第31号令和5年度防府市一般会計予算(所管事項)
-

○出席委員(8名)

主 査	高 砂 朋 子
副 主 査	梅 本 洋 平
総務委員	今 津 誠 一
〃	久 保 潤 爾
〃	曾 我 好 則
〃	橋 本 龍 太 郎
〃	松 村 学
〃	三 原 昭 治

○欠席委員(なし)

○委員外議員(8名)

青 木 明 夫
河 村 孝
清 水 力
田 中 健 次
田 中 敏 靖
村 木 正 弘
和 田 敏 明

○説明のため出席した者(39名)

総務部長	能 野 英 人
総務部次長	永 松 勉
総務部危機管理監	齊 藤 忍
人事課長	大 倉 孝 規

人事課主幹	糸 井 純 平
行政管理課長	磯 邊 範 子
行政管理課主幹	田 邊 友 純
防災危機管理課長	関 屋 拓 亮
財政課長	山 根 康 宏
課税課長	原 田 一 幸
収納課長	中 村 克 己
総合政策部長	石 丸 泰 三
総合政策部政策推進監	亀 井 幸 一
総合政策部次長	伊 藤 忍
政策推進課長	廣 中 一 秀
デジタル推進課長	小 田 至 郎
広報広聴課長	田 村 裕 之
地域交流部長	杉 江 純 一
地域交流部次長	池 田 晋
地域交流部参事 (兼文化・スポーツ課長)	瀬 川 博 巳
地域振興課長	岡 田 由 紀 江
おもてなし観光課長	福 谷 英 樹
入札検査室長	河 村 明 夫
入札検査室次長	鱒 石 智
会計管理者(出納室長)	寺 畑 俊 孝
会計課長	河 田 美 幸
議会事務局長	藤 井 一 郎
議会事務局次長	石 井 朋 子
監査委員事務局長	廣 中 敬 子
監査委員事務局次長	原 田 秀 明
選挙管理委員会事務局長	森 田 俊 治
消防長	米 本 静 雄
消防本部次長	植 木 克 己
消防総務課長	山 崎 泰 介
予防課長	岡 村 保 則

警防課長	池 部 明 司
通信指令課長	林 義 浩
通信指令課主幹	石 川 昭 夫
消防署長	中 島 栄一郎
消防署副署長	長 尾 浩 之

○出席書記

内 田 敦 士

午前10時 5分 開議

○高砂主査 それでは、予算委員会総務分科会を開催いたします。

私が本分科会の主査を務めることとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議案第31号令和5年度防府市一般会計予算（所管事項）

○高砂主査 本分科会の審査対象は、議案第31号令和5年度防府市一般会計予算中、総務分科会所管事項についてでございます。

本日の審査については、お手元のレジユメのとおり、執行部を順次入れ替え、行いますので、よろしくお願いいたします。

これより質疑に入りますが、質疑に当たっては、資料名とページをお示しいたきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、初めに、議案第31号中、消防本部、入札検査室、出納室、議会事務局、監査委員事務局及び選挙管理委員会事務局所管の予算に対する質疑を求めます。どうぞ委員の皆様、よろしくお願いいたします。

○曾我委員 すみません。ちょっと入札検査室は今日いらっしゃいますか。ちょっとお聞きしたいんですけど、山口市が電子入札を始めるよということで、防府市さんが今どうやって考えちゃってか、ちょっと教えていただいてもよろしいですか。（「電子契約です」と呼ぶ者あり）電子契約ですか、あれ。（「電子契約はもうやっています」と呼ぶ者あり）やっていますか。その辺、ちょっと教えていただいてもいいですか。

○高砂主査 挙手をお願いいたします。

○河村入札検査室長 入札検査室です。御質問にお答えいたします。

多分、今、議員がおっしゃったのは、電子契約のことだろうかというふうに思います。電子契約につきましては、山口県と山口市が、この4月から導入されるという準備という

ふう聞いております。県内でも今、山口市さんのみの状況です。

防府市につきましても、契約保証のほうを今準備をしておりますして、電子契約につきましては、今ちょっと他市のほうの状況を見ながら、今年度中、進めていきたいなというふうな形で今準備に入っております。時期はちょっとまだ不明です。

以上です。

○曾我委員 ありがとうございます。ちょっと電子入札かなと思って、あれですけど。印鑑とか——電子印鑑とかいったら、多分10万円とか高いらしいんで、まあまあその辺、もし防府市もやっていくのであれば、何らかの補助とかそういったものが必要かなということでは思いましたので、まあそんな感じです。すみません。

○高砂主査 ほかにございませんか。

○松村委員 325ページです。マル新で災害対応用ドローンの導入ということでございますが、大体これ趣旨は分かりますし、素晴らしいと思っております。こういったような勉強会とかも、私もちょっと出席させていただいて、三友さんとかがやっていたら、非常に現実にこういう形で導入して、やっぱり災害が起きたときの早急な対応ができるというのは、すごく分かりました。

ところで、このドローンを導入するのはいいんですけど、これを操縦するのは消防署の職員さんがやるんですかね。そうなってくると、ドローンの、また教育を受けたりせんにゃいけないと思うんですけど、その辺も含めての予算なんですかね、これは。

○池部警防課長 消防本部警防課長の池部です。ドローンパイロットにつきましては、令和3年度末に2名のパイロットを養成しております。令和5年度に、さらにまた2名のパイロットをドローンスクールのほうで養成するようにしております。

○松村委員 これ、ドローン免許取るのは、一応、課程をきちっと教育したら取れるんですけど、今、農業のほうでも農薬散布で使われているんですけど、結構、墜落したりして、なかなか操縦が難しいみたいですね。それで、農業散布のドローンも墜落して壊れたりとかいうような話もあるんですけど、そうなってくるとどうなんでしょうか。そういった心配はないのかなとか、そういったところまで高度な教育をしているのかとか、あとはスペアでもう一機ぐらい補完するようなことも考えているとか、その辺をちょっと教えてください。

○池部警防課長 一応、消防が今度、令和5年度に導入予定のドローン、導入する要件といたしまして、自立飛行が可能というのが必須要件になっております。

この自立飛行というのは、例えば、途中バッテリーがなくなったりとかそういうことが発生した場合に、ドローン自体がその場に着陸をすとか、また、離着陸場所まで自動で

帰ってくると、そういうシステムがもう入っているドローンを導入しようと思っておりますので、操縦ミスというのは、そういう自立飛行機能がついておりますので、なかなか、ちょっと考えにくいんですけども。

○松村委員 分かりました。しっかり活用して、また新しい力になったらいいなと思っておりますので、運用のほうをまたいろいろ考えて活用してください。

以上です。

○高砂主査 ほかにございませんか。よろしいですか。

〔「進行」と呼ぶ者あり〕

○高砂主査 ないようですので、質疑を終了いたします。

なお、総務委員会及び予算委員会総務分科会といたしましては、本日が今年度最後の会議となります。執行部の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

また、定年により本年3月31日付で退職される方がいらっしゃいますので委員の皆様にお知らせするとともに、長年にわたり市政の発展に尽くしてこられたことに対し、心から敬意と感謝の意を表したいと思っております。

それでは御紹介をいたします。選挙管理委員会事務局長の森田俊治さん、続きまして、会計課長の河田美幸さん、監査委員事務局次長の原田秀明さん、消防本部次長の植木克己さん、通信司令課長の林義浩さん、それから消防署長の中島栄一郎さん、以上の6名の方でございます。

ここで、退職される方を代表して、森田選挙管理委員会事務局長と植木消防本部次長から御挨拶をいただきたいと思っております。よろしく願いをいたします。

○森田選挙管理委員会事務局長 選挙管理委員会事務局の森田でございます。河田課長、原田局次長と私の3人を代表しまして、一言御挨拶を申し上げます。

私が市役所に入りまして初めての職場が、今は名前が変わっておりますが、教育委員会の体育課というところでした。勤務地はスポーツセンターの中でございまして、寄棟と言ったらちょっと大きいんですけど、大きな緑の屋根の体育館の中で仕事をしておりました。このときは、財団法人防府スポーツセンターというのがありましたので、その職員と一緒に執務をしておりました。

ここではお休みがちょっと変則的でした。土曜日は昭和生まれにはおなじみの半ドンと、日曜日は終日勤務で各種スポーツ大会のお手伝いなんかをしておりました。月曜日は通常の終日勤務と。火曜日がスポーツセンター体育館の休館日でしたので、市の職員も一緒に合わせて火曜日が休みという変則的な形でした。当然、火曜日休みということで、なかなか友人と遊べなくて、お休みの日は一人で寂しくうろうろしておったところです。

それから、定年を迎えました職場は選挙管理委員会事務局でございますが、事務局が4号館にありますので新庁舎建設の一時的な引っ越し作業は免れたんですけども、この2年間で、他に類を見ない6つの選挙に携わってきました。今も県議選の事務の真ただ中で、私が退職辞令を頂く3月31日は、御存じのとおり告示日で、立候補の受付事務などもございます。退職する日に残業するという、めったにない機会に遭遇しております。市役所人生の初めと終わりで、めったにない機会を経験させていただきました。

4月からは河田、原田、森田とも市役所で働けるよう人事課に再任用をお願いしております。人事異動の発表はまだですが、もしかしたら、また議員の皆さんと絡むことがあるかもしれませんけれども、そのときはよろしく願いいたします。

大変お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

○高砂主査 それでは、続いて、植木次長、よろしく願いいたします。

○植木消防本部次長 消防本部次長の植木です。覚え切れなかったので、ちょっとカンペを読まさせていただきます。

消防本部を代表して御挨拶いたします。思い起こせば4年前に通信司令課長を拝命し、当時、動き始めていました消防通信司令業務の共同運用を、現在の米本消防長から引き継ぎました。共同運用の件で議会説明会に参加することになり、主管課長として台本や資料、想定問答などを作成し、万端整えたつもりで出席しましたが、議員の皆様からは想定していなかった鋭い質問をたくさん頂戴いたしました。

また、私が緊張のあまり質問の内容を勘違いし、とんちんかんな回答をしてしまいましたが、優しく間違いを指摘していただいたことをよく覚えています。

このときに感じたのは、議員の皆様への防府市に対する熱い思いや視点を変えて考えることの重要さでした。新年度も今まで以上に鋭い質問や御指摘、そして、ごくたまにでよろしゅうございますので優しい声を掛けていただければと思います。

今までありがとうございました。お世話になりました。（拍手）

○高砂主査 御挨拶、ありがとうございました。退職される6名の方々におかれましては、長い間、本当にありがとうございました。今後とも、市政のよき理解者として御協力をいただくとともに、御健勝、御多幸を心からお祈りをいたしたいと思っております。

それでは、いま一度、退職の皆様へ拍手を送りたいと思っております。（拍手）

それでは、執行部の皆様は御退席いただいて結構でございます。大変お疲れさまでした。ここで、執行部入れ替えのため暫時休憩をいたします。

午前10時19分 休憩

午前10時20分 開議

○高砂主査 休憩を閉じて、会議を再開いたします。

次に、議案第31号中、総務部所管の予算に対する質疑を求めます。

○久保委員 予算参考資料の10ページ、歳入予算の概要のところ、市民税の増を見込んでおられるわけですが、現在、燃料費の高騰とか物価高騰で景気がいいとは言えない状況だと思うんですが、このような状況の中で増収を見込まれたのは、こういった分析に基づかれているのか教えていただけますか。

○原田課税課長 お答えします。

コロナ禍の関係もありまして、令和元年と比較して、まだそれまで景気自体戻っていないところもありますが、この2年間の低迷からすると大分それに近いものとして回復した状況になっておりまして、納税義務者の方の数も令和元年ほどではないですけど、それに近いほどの見込みとなってくるということで増額を見込んだところで、こういった増額になっておるところでございます。

以上でございます。

○久保委員 ですから、コロナ禍で少し落ち込んでいたものが戻ってくるという考え方でこうなったということよろしいですね。分かりました。では、続けて。

4ページと16ページですね。4ページで市債のことなんですけど、4ページで前年比109.2%の増ということで、16ページにはその市債の概要があるんですが、庁舎建設等があるので市債の発行額が前年比上がるというのは、よく分かるんですけど、ほかにも結構、市債発行するものが多いんですが、これが将来負担比率とかそういったものへの影響というのがどの程度あるのか、問題ないと考えているのか、あるいは、少しこういった影響がありますよということになるのか、その辺りを教えていただければ。

○山根財政課長 お答えいたします。

確かに、今、委員さんがおっしゃられたように庁舎建設の市債が一番大きな要因にはなっておりますが、将来負担比率につきましても、こういうふうに市債が増加しまして、その分、基金も下がっていきますと数値等も出てくるとは思いますが、今のところ、防府市は、今までは数値が出ていない状況にはなりますけど、ここの数値は、確定的なものは、まだ試算はできませんが、令和5年度くらいからは多少数値は出てくるとは思いますが、周りの近隣自治体とかと比べましても、同じような数値では推移できるのではないかと思っております。

以上です。

○久保委員 ありがとうございます。すみません、ちょっと度忘れしたんでお教えいただ

ければ。将来負担比率で健全化を促される比率は何%ぐらいでしたっけ。

○山根財政課長 早期健全化比率のほうが350%になっております。

○久保委員 350%ですよ。ですから、今、比率は防府市ない状態ですから、では十分健全だということですね。分かりました。了解です。

○高砂主査 よろしいですか。ほかにございませんか。

○今津委員 地方消費税の交付金のことでお尋ねするんですけども。概要のほうですと56ページですね。今さっき久保議員さんが尋ねられた予算参考資料で4ページにありますね。それで、予算参考資料のほうには、この増減率が5%になっていると思うんですね。それから、こちらの概要のほうでは5.8%になっているんですけども、これどっちがど
うなのか。それで、この増の要因というのは地方財政計画等を勘案してこういうふうにな
ったというふうにあります。そのところをちょっと説明してもらえますか。

○原田課税課長 お答えします。

地方消費税交付金についてのお答えですけれど、増減としては5.77%ということで、金額で前年の比較として1億5,000万円の増額ということで計上させてもらっております。

状況としては、今言われた地方財政計画、これ国のほうが示しておるんですけど、コロナ禍からの回復傾向にあるということでの消費の回復といったことが主な要因であろうかと思われま

それに伴って消費が回復してくることで消費税の税収も上がってくるということによって、そういった地方財政計画のほうでも、率にすると11%程度の増額ということで国のほうが示しております。それを参考にさせてもらって、防府市としても増額を見込んでい
るところでございます。

以上でございます。

○今津委員 国全体で11%増ということですね。

続いて、地方交付税から臨財債、これもやはり同じく地方財政計画等を勘案して地方交付税が12.5%の増と、臨財債は73.3%の減ということですけども、これについて説明してください。

○山根財政課長 お答えいたします。

国が今回示しております令和5年度の地方財政計画におきましては、地方交付税が1.7%の増と、臨時財政対策債のほう
が44.1%の減となっております。こういった動きを参考にしまして、市の歳入規模を勘案しまして、そこから推計をしたものでこういう数値になっております。

以上です。

○今津委員　じゃあ、地方交付税は全体よりもかなり高いということになっているんですね。ちょっとその辺のところをもう少し詳しく説明してもらえますか。

○山根財政課長　増減率につきましては、あくまで国の規模と市の規模でちょっと一律的には変わってはくるんですが、増加率、上がっているか下がっているかというところを基本的には見ておまして、その中で、市の地方交付税と臨財債の計算にしましては、今年度の実績見込みと、そこから見たその増減率を見まして、あとは地方交付税と臨財債の割合を、今年度のところを参考にして試算をした結果、こういう数値になっております。

以上です。

○今津委員　ちょっとまだ数点あるんですが、1点聞いて、ちょっと置きますから。

○高砂主査　はい、分かりました。

○今津委員　これは概要のほうだと思いますが、財政収支見通しの74ページですね。これ、内閣府のほうで試算しておるんですけども、経済成長率はベースラインケースで考えて0.5%というふうに出しております。これは、全国一律のマクロベースでの試算だと思っておりますけども、やはり、地域地域で産業構造等の違いもありまして、大体これはアバウトなというか大雑把な捉え方だろうと思うんですけども、防府市の産業構造上の特性を加味した試算というものが需要ではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○山根財政課長　お答えいたします。

確かに、今津議員さんがおっしゃられた地域の状況等の試算も必要だとは思いますが、具体的なところを把握するのはなかなか難しいところでもありますので、国が示しているところを基準にして、長期的な収支のところは計算をしております。

以上です。

○高砂主査　よろしいですか。ほかにございませんか。

○松村委員　予算書の473ページですけど、給与費明細書というのがございます。常々思っていたんですけど、今回の総括表でも前年度と比べて64人減で、これは任用パートタイムが76人減っていると。次のページを見ても、かなりの数が減っておるんですね。今頃は再任用されて、だいしょう補強はされておると思うんですけど、なかなかやっぱり職員さんのいろんな、ざっくばらんに話をするとき、人が少なくなってきた業務がきついねというような話もちょっと聞いたりもします。

実際、今、防府市ではどれだけの正職員をまず確保して、これぐらいをパートタイムで、これぐらいを再任用でという、これぐらいを維持しとけば何とか今業務が回るよねという、何かそういった基準というか判断材料みたいなものがあるかどうか。あるのであれば教え

てほしいし、最近、結構、早期退職される方が多いんで、実際、本会議等いろいろね、予算委員会でもありましたけど、やっぱりそういうのも考えていくと、ちょっと多めに人員を採ったりしておくことも、採ってもすぐ辞めたりとか、合格しても防府市役所に入庁しないとか、かなりいろんな話を聞いておるんですけど。そういったところについて、ちょっと総括的なお話を教えていただけたらと思います。

○大倉人事課長 お答えします。

まず、全体の数についてなんですけれども、今現在の定員管理計画について、令和4年度で676人、5年度が670人、6年度672人、7年度672人ということで正職員のほうは計画をしているんですけども、ちょうどこのたび、定年延長の制度が来年4月1日から導入されますので、管理計画のほうをまず見直させていただこうと考えております。

定年延長だけではなくて、やっぱり最近、育児休業とかその辺りがすごく増加しておりますので、この計画数値について大幅に見直すように、今考えておるところでございます。

あと、職員数、会計年度が大幅にというのは、これフルタイムでずっと1年間継続されているとかそういうものではなくて、短期的なものとかも含めてここに上がってきておりますので、例えば、市民課や課税課の年度当初のすごく集まったりするところとか、そういったのもこの数に、あと選挙とかもここに含まれておりますので、会計年度につきましては必要な数をその年度ごと、それから季節ごとをお願いをしているところでございます。

○松村委員 さっき、正職については676人からずっと行って、672人と言いましたけど、この辺りが一応維持しとかなないといけん数字ということではよろしいですか。

○大倉人事課長 そうですね。今現在の計画数としては、ここになるんですけども、先ほど申しましたように育児休業とかも数に含まれておりますので、ここがやっぱりどんどん増えているところがございますので、そこも含めて定員の管理計画上の数値も見直そうとしているところがございます。

○松村委員 ついでに、ちょうどいいのでお聞きするんですけど、技術職については今どんな状態になっていますか。これも大体これぐらいの人数を確保しないといけんけど、これも再任用やらもあるからあれなんでしょうけど、実際は、これぐらいは維持しとかなないといけんという数字があるんであったら教えてください。

○大倉人事課長 技術職につきましても、基本的には退職者数のほうが採用よりも多いような状況にはございます。実際、全国的にどこの市町村も採用をかけても応募してくれないとか、公務員と民間の給料とかの違いによって、実際、公務員になられても、その後、民間のほう待遇がいいので辞めていかれるとかそういった状況もございますので、その

辺り、来年度、募集の方法とかも検討して、今採用を増やそうとしているような状況でございませう。

○松村委員　今、募集の方法と言われましてけど、何か他市よりも防府市役所に来ていたら働きやすいよじゃないですけど、魅力があるよというような、何かそういったようなものを打ち出すということなんではございませうかね。募集の方法を変えるというのは。それとも変則的に民間企業へ行っとった人を、社会人枠採用みたいな枠を増やすとか、そういうことなんではございませうか。その辺、御説明ございませう。

○大倉人事課長　今、検討してございませうのは、採用の回数を今よりも増やす方向を考慮してございませう。

○松村委員　ということは、普通は試験をする日にち、決まてございませうんですけど、年に何回か、その試験の回数を増やすというございませうことなんではございませうか。いつ頃といつ頃といつ頃ぐらい考慮してございませうらっしゃるのではございませうか。

○大倉人事課長　ちょっとまだ詳しくは申し上げられな部分があるんですけども、今まで技術職であれば通常1回で、募集に足らなければ追加募集としていたのを複数回、2回から3回募集をするような形を考慮してございませう。

○松村委員　了解ございませうしました。今でもそうだと思てございませうんですけど、本当に公務員ってなかなかなれないので、本当にみんななりたと思ていたたら、こういう形で、いろんな形で、なかなかな人員が維持できていない、できない時代になってきてございませうということで大変私も困惑してございませうんですけど、ぜひそういったいろんな手法を取り入れて、しっかり維持できるように、少し余裕があるような状態を逆に維持していきながらやたらほうで、多分職員の皆様の働き方改革とかいろんなことに対しても、しっかり柔軟に対応できるのではございませうかと思てございませうるので、そのほうで防府市の行政にとってもいいのではございませうかというふうで思てございませうるので、ぜひその辺も含めて今後の業務を遂行してございませういただきたいと要望してございませう。

○高砂主査　ほかにございませうませうか。

○三原委員　ちょっと今、関連なんではございませうんですけど、今、職員数で職員計画数というございませうことで述べられたと思てございませうんですけど、適正職員数というのがあると思てございませうんですけど、防府市の場合、適正は何人のなのか。

○大倉人事課長　令和2年末にこちらの計画を作たらんではございませうんですけども、そのときに作った計画数値としては、今、お知らせした4年度からが676人、5年度が670人という数字になってございませうります。ただ、今現在、状況が変化してございませうりますので、今年度、見直しをするように計画してございませうります。

○三原委員 適正化数というのは、これはあるんじゃないですか、ないですかね。防府市の場合、例えば、人口比率とかいろんな計算の中で適正職員数というのがあったと思うんですけど、それは何人になるんですか。

○大倉人事課長 これが、ちょうど令和3年度からの総合計画を実施するための計画になっておりまして、その数字に合わせております。

○三原委員 計画は、防府市が立てる計画なんですよ。だから私が言っているのは、適正化数というのは確かあったと思うんですけど、それはないですかいね。

○能野総務部長 すみません。三原議員が言われていらっしゃる適正化数、一般的な、何ていうか参考値といいますか、こういった自治体においては、こういった数字ということだろうと思うんですけど、そういった示されたものは今ないです。

もちろん類団とか県内自治体とかと比較はできるんですけど、そういった中においても、うちは多いほうではないので、あくまでうちの適正化の数字、適正な数字というのが、先ほどまで課長が申し上げております定員管理計画上の数字がうちの適正な数字と、今お示しできる数字ということになります。

○三原委員 例えば、消防なんかはありますよね、適正数というのが。というのは、市の場合、今部長が言われるのは、市が定めた計画が適正化ということになるということですね。

それともう一つ、今あるのかどうか分かりませんが、社会人枠というのは今どうなっていますか。

○大倉人事課長 お答えします。

まず、一般行政につきましては、令和元年度の募集で、2年度、3年度、4年度はございません。それから、土木と建築技術職につきましては、現在も行っております。

○三原委員 この社会人枠、今ないというのは、ないほうがいいと思います。というのが、いろんな話がありまして。それはともかく、それで今、市が定めている適正化数、この辺、不思議で、我々がよく市民からも言われる、私も思うんだけど、夜になるとずっと電気がついているところがありますね。4号館、1号館、特に。あれはなぜですか。もう、いつもですよ、ついていないときがないぐらいついている。これは残業でしょうけど、なぜそれだけ残業があるのかなと不思議に思うんですけど、これはなぜですか。

○大倉人事課長 お答えします。

窓口があるところにつきましては、日中のうちは市民の受付をして、その処理等に時間外が発生するような状況にございましたり、あと時期的なものとして、人事課とか財政課とかにつきましては、議会の前ですとか人事の前ですとか、そういったときに時間外が発

生したり、それぞれ状況は違うんですけれども、課によって閑散期とか繁忙期とかというところがございます。

○三原委員 窓口のあるところ、これほとんど時期的なもので明かりがついているということになると思うんですけど、ちょっと考えられんぐらいに。私たちは、こういう市に関わっているから関心があるんですけど、市民の方からもよく聞かれるんですよ。なぜあれだけ毎日毎日遅くまで電気がついているんですかということを開かれますので、これはまた、ここでいろいろ話してもあれですけど、適正化数で適正なんだろうなと思いながら質問しました。また、これは折を見て教えてください。

○高砂主査 ほかにございませんか。

〔「進行」と呼ぶ者あり〕

○高砂主査 ないようですので、質疑を終了いたします。

なお、総務委員会及び予算委員会総務分科会といたしましては、本日が今年度最後の会議となります。執行部の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。来年度もどうか引き続き、よろしく願いをいたします。

それでは、執行部の皆様は御退席いただいて結構です。大変お疲れさまでした。

ここで執行部入れ替えのため、暫時休憩をいたします。

午前10時45分 休憩

午前10時52分 開議

○高砂主査 おそろいですので、休憩を閉じて会議を再開いたします。

それでは、議案第31号中、総合政策部及び地域交流部所管の予算に対する質疑を求めます。

○久保委員 予算参考資料54ページ、UJIターン促進事業についてです。今年度、1,500万円の予算が計上されておりますけど、ここ数年、1,000万円以上の予算計上をしてあるんですけれど、この前あった3月補正もそうですが、防府市は3月補正で、その大半が減額になるというような状況が続いているように思うんですけれど、せっかくの事業ですので、やはり予算が消化できたほうが良いとは思いますが、この状況を打破するための新たな方策等を、もし考えておられたら教えていただきたいと思います。

○廣中政策推進課長 それでは、御質問にお答えします。

今、議員のおっしゃるとおり、ここ3年間の実績は、令和2年度、1世帯1件、令和3年度、単身世帯2件、令和4年度、世帯1件という状況でございます。

この制度自体は国のほうでされています移住金支援制度でして、条件等がなかなか厳し

い部分もございまして、今、御指摘のとおり、移住支援金制度が有効に活用されているかという部分は非常に難しい状況でございます。

そのような中、私どももホームページをはじめとして、防府市のホームページであれば、防府U J I ターン支援サイトや山口県央都市圏域との連携による情報発信や、首都圏で行われる移住フェアの参加などで何とか周知を図っておりますが、なかなか条件に難しい部分がありまして、利用のほうが進んでいないのも事実でございます。

次年度も引き続きまして、そういう部分、相談等ありましたら積極的に、現在も周知はしておるんですが、なかなか条件が難しい部分で進んでいないのは事実でございます。次年度以降も、ずっと頑張っていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○久保委員 条件等があるということで、なかなか難しい部分もあるんでしょうけど、さっきの調査で、中四国の自治体の中で転入超過が1位となったということが報道されたわけでございますけど、分析等もまだまだなのかもしれないですが、これをPRに使っていくお考えというのはおありですか。

○廣中政策推進課長 先日の住民基本台帳人口移動報告の2022年におきまして、防府市が転入超過、中四国で1位だったこと、これ自体は、今確かにその内容についての調査研究を進めておりますが、なかなか正解はないんですが、このこと自体につきましては市広報でも先日お知らせをさせていただいたんですが、これをU J I の中でどう生かすかという部分は、情報発信などで、私どもホームページ等では当然させていただこうとは考えておりますが、今後、来年度以降の広報戦略室等と協調しながら、またそういう部分でお知らせしていきたいと考えております。

○久保委員 そもそもなるんですけど、この移住の促進ということに関して、執行部はこれを重要な事業として捉えておられるかどうか。何かすごく素朴な質問なんですけど、そこをまず教えていただきたいんですけど。

○廣中政策推進課長 3月議会で、市長のほうも一般質問で申されたとおり、防府市の価値を増進することによる最終的な総合計画で掲げております人口の、令和7年11万2,000であったり、若年人口の転出超過を減ずると、こういう目標について、もう最重要課題ということで昨日の一般質問でも、防府市全体でこれは取り組むべきことと考えておると言われていますように、防府市としても総合計画に実際書いてある内容を実現することによって、これらの人口に関する動きについても目標を達成していきたいと考えておるところでございます。

○久保委員 分かりました。だから、重要な事業であるということは間違いのないということだと思います。

さきの予算委員会でも、いろいろU J I ターンについては意見が出たわけですが、住居のことであったり、あと、いいことばかりではなくて、そういうデメリットもちゃんと知らせた上で来てもらったらいんじゃないかという委員の意見もあったり、住居でいったら土木都市建設部になってくるでしょうし、自治会の話になったら地域交流部になっていきますし、あるいは、移住することで子育て支援とかも入ってくるし健康福祉部も入ってくる。

ですから、これ、今総合政策部単体でやっておられるんですけど、他部署との連携等も考えていかなければならないと思うんですけど、そういったことに関しては、何か執行部のほうで方向性といいますか、そういったことをお考えになったりしたことはおありなんでしょうか、どうでしょうか。

○亀井総合政策部政策推進監 すみません、ちょっと読みにくい政策推進監ですけど、一応、部次長ですけど、政策推進監ということで、縦のラインですね、各課長さんおられますから、各部に各課長さんがおられて、私のほうが横糸になってやっていくということで、尻叩きもしながら、そして結びつけながら布を織っていくというようなことに、お役目ですので、そこをしっかりとやりたいと思います。

今、久保委員からもありましたように、昨日から住宅施策を考えたらどうかと、それから広報弱いねというような御指摘もいただいております。これは単課でやると弱いので私も絡みながら連合してやると、複数課にわたってやるということをやりたいと思います。昨日、早速、御指摘いただきましたので、大田市の大森町、テレビなんかでよく石見銀山のまちづくりということで、NHKなんかでもよく若い人が移住しているというのでテレビでやられていますけど、あそこの事例をちょっと私のほうで研究したものがなかったので、広報のほうへ流したり、後ろにありますけど、廣中課長のほうへ、こういう戦略でこういう作戦で発信してはどうかというようなお話もしておりますので、新年度、その辺しっかり、すぐに答えは出ないと思いますが、連携してやるというので責任を持ってやらせていただきたいと思います。と思っております。

以上です。

○久保委員 ありがとうございます。本当に重要な事業として執行部が捉えておられるということですので、今、推進監のほうからありましたように、全庁的にこれに取り組んでいくんだというような姿勢を見せていただいて、少しでも成果が上がるようにしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

続けましていいですか。

○高砂主査 はい。

○久保委員　あと1点です。50ページ下段の庁舎建設事業です。3月9日の中国新聞で、市役所建て替えに伴う発掘調査で、古墳時代の木製の人工物が見つかったという記事がありました。この木を流木として処分したことなどに対して、文化庁から適切ではないというふうに言われたというふうな、そういった記事が掲載されていたわけですが、まず1点目としては、これは事実であるのかどうか。

2点目として、このことが今後の庁舎建設スケジュールに何か影響するのかといったところを教えていただきたいと思います。

○伊藤総合政策部次長　では、ちょっと私のほうからお答えいたします。

まずは、記事の内容の正確性というか、その話なんですけども、幾つか事実と、そうではないという言い方はおかしいんですけども、混ざって報道されている部分がありますので。

まず出土していたと、あそこの新聞記事に出ていたのは、昔のすきの一部というような話がありました。当然それに関しては事実です。あれが出たのは、最初に工事の前に発掘調査をしたときですね、そのときに出土しましたと。9日に分かりましたと書いてあるんですが、当然それより前に分かっていたんですけども。

それと併せて書いてあったのが、文化庁は適切でなかったという言い方なんですけども、まず、市としてのスタンスとしては、この市役所敷地全体が、いわゆる周知の埋蔵文化財の包蔵地ということになっておりますので、開発行為をするときは、まずは、最終的には文化庁のほうに、ここで開発行為をしますということを申請というか届けを出して許可をいただかないといけないと。

手続としては、教育委員会を通して、県のほうを通してというふうにするんですけども、そこに関しては、まず手続はきちんと踏んでおります。県のほうから、いわゆる通知を頂いて、まずは調査をしてくださいということで発掘調査をいたしました。それが終わった上で工事に入ったという流れでございます。

文化庁のいわゆるコメントというか、そこなんですけども、我々が直接、あれ伺ったわけじゃないんですが、新聞社さんのほうで直接文化庁のほうに、恐らくインタビューされたものだと思います。ちょっとこちらのほうで伺っているのは、文化庁のほうでは、いわゆる一般的なこととして回答されているということで伺っていますので、そこを、ああいうふうに――ああいうふうにという言い方は、ちょっとあれですけども、記事として書かれたのであろうと思っております。

○久保委員　1点目については分かりました。だから、適切でないと防府市に対して言ったわけじゃなくて、一般論として適切ではないということだったということですね。

2点目のほうで、結論として、これが今後の庁舎建設スケジュールに影響を与えないと

いうことでよろしいですかね。

○伊藤総合政策部次長 失礼いたしました。与えるものではないと思っております。

○久保委員 了解しました。安心いたしました。では、どうぞ引き続き順調に進めていただければと思います。よろしくお願いします。

○今津委員 U J I ターンに関連して、ちょっとお尋ねします。

先ほども紹介ありましたが、防府市が中四国管内で転入超過第1位ということのようです。これは、要因は何かと聞きましたら、大企業のスポット的な要因が主なものだというふうに聞いたんですけど、その辺のところ、正確なところを教えてくださいませんか。

○廣中政策推進課長 今の御質問についてお答えさせていただきます。

今回の住民基本台帳移動報告、これにつきましては、国外の転出入を除く国内における人口の移動についてというものを対象にして集計しているものでございますが、本市における2022年の移動状況を世代別、5歳刻みぐらいで、ちょっと確認させていただきましたところ、20歳代の転出がここ数年より小さく、30～34歳代の転入が多いという、まず状況でした。要因につきましては、明確に「これです」というものは、なかなかはっきりはしないんですが、関連の課からの聞き取り等を行った中で、企業への就業が大きな要因となっているということをご想定しております。

以上です。

○今津委員 ちょっと私が聞いているのは、ブリヂストンさんが大量に雇用で入れられたというふうに聞いているんですけど、その辺はいかがですか。

○廣中政策推進課長 個別の企業名どうこうというのは、なかなかあれなんですけど、今そういう事実もございましてという話は聞いております。

○今津委員 だから、人数はどれぐらいなの。

○高砂主査 ちょっと挙手をお願いいたします。

○廣中政策推進課長 採用人数は、また、転出・転入に必ずしも関わるわけではないので、企業様は採用された人数という部分で測られていますので、防府市の転出・転入にそれがどれだけ寄与しているかは、ちょっと不明でございます。

○今津委員 いや、雇用を聞いているんじゃない。結果として転入をされた人がどのぐらいおられるのかということを知りたいわけよ。

○廣中政策推進課長 これは2022年の防府市への転入ですかね、これは。ブリヂストンさんの転入がという部分では、実数はちょっと不明でございます。というのは、詳細は、ちょっとBSさんからの人員については、トータルで200名ぐらい増やしたいという話は聞いておりますが、それが全部2022年中かどうかというのは、私ども詳細は分かり

ませんが。

○今津委員 分かりました。このU J Iターンの推進ということですが、私もこれについて何度か推進をとということで意見を述べたことが実はあるんです。あるんですが、最近はちょっと考え方が変わってきてまして、その考え方に距離を置くようになってきたんですね。

このU J Iターンの推進しているというのは、これは、国とそれから中央政府ですね、そういった視点から東京一極集中を是正をするということで、地方に人を移動させると。これが1つですね。

もう1つは、そういったこととは関係なしに、やはり都会暮らしはもう飽きて、田舎暮らしをしたいという自主的な移動、移住ですね。こういったような2つの流れがあると思うんですけども。

それで、ここから先は軽い気持ちで聞いてもらったらいんですけど、結局、私は思うのに、移住というのは、こういう何か上から押しつけてやるというような性格のものでもないんじゃないかと。民族の移動的なことをやろうとしても、なかなかうまくいかんのではないかというふうな気がしているんですね。

結局は、社会状況の変化とか、あるいは人間の意識の変化、こういったところが主体になってくるんじゃないか。それを待つ以外に、幾ら人間が作為的にこれを進めようとしても、労多くして実質的な効果が乏しいんじゃないかなと、こういう気がしておるんですね。ちょっと政策に水を差すようなことを言いましたけど、そういったところも、ちらっと頭の隅で考えておいてもらったらいんじゃないかなということで、私の意見を言わせてもらいました。

それで、これ余談の範中ですが、私も居酒屋なんか行って、ちょっとアクセントの違う人がおられたら、外から来た人だろうということで、極力話をするようにしているんですけども。そういう人たちに防府の印象を聞いたら、「防府というところは非常に住みやすいところです」、「いいところです」、こういう意見が意外に多いんですよ。だから、防府には、よさがあるということは、我々ここに住んでおる者が気づかないところを評価しておられるわけですね。だから、そういったところに自信を持って、ゆっくり移住をしてもらったらいんじゃないかなというふうな気がしております。余談で至らんことを申し上げます。

○石丸総合政策部長 貴重な御意見ありがとうございます。私も相通ずるところがありましてですね、御意見に。まあ地域のことを安売りするなというのが、まずあります。防府がいいまちなんで、安売りしてでも人を持ってくるというようなことは、すべきではない

と。それに税金がかかるわけですからというところがあります。ですので、首に縄つけて持ってくるというのではないんですけど、総合計画を進めていく中で、総力戦で防府の価値を高めていって人を呼んでくるということであろうと思っています。

このたび、中四国で1番になりましたとあるんですけど、統計を見ると3分の1は増やしているんですけど、3分の2はマイナスなんです、全国の3分の2の自治体は。3分の1は、東京がほとんどが占めて、あとの本当おこぼれを、たまたま防府なんかが取っているという状況です。だから東京の独り勝ちにまた戻っているという状況です。ですので、税金使ってもやるんで、ここはあまり無理なことはしないでやっていきたいと思っています。

ただ、コロナもよくなりますので、今言ったように防府のことを知っていただけたら、いいじゃないか、ここはいいじゃないかと思うんですし、知っていらっしゃらないということが多いので、東京とかに出張って行って、県の案内所もありますから、そういうところでPRをして、それとか、今は防府ファンということでやらせていただいています。だからUJIターンにすぐすぐつながらなくても、防府ファンというものを大切にしましょうという、そこから定住に結びついていけたらというストーリーでやっていますので、定住施策は重要なんですけれども、我々の活動としては、防府ファンをつくっていくという中で定住に結びつけていきたいという感覚でありますので、よろしくお願いいたします。

○高砂主査 よろしいですか。ほかにございませんか。

○橋本委員 すみません。先ほどのUJIターン促進事業の続き、今、部長のお話を聞いて思ったんですけど、今津委員が言われるように、都市圏から山口県に来る、なぜ防府市なのというところ、だから何を売っていくのかというのが、やっぱり今から重要になってくると思うんですけれども、じゃないとやっぱり来ないというところもあるし、まず、全体で1,800とか1,900とか市町村ある中で、どうやって防府市を見つけてもらうかというところから始めると思うんですけれども、単純に自分、意見としてちょっと言わせてもらうのが、ふるさと納税と絡めて、要は防府出身で都会に住んでいらっしゃる方に、ふるさと納税をしてもらって将来的に帰ってきてもらうのが、多分、一番防府を知っていて将来的に帰ってもらうのが一番早いんじゃないかなというところがあります。これは一応、多分この補助金の対象になるという認識はしているんですけど、それは間違いないですかね。

○石丸総合政策部長 お答えします。

ふるさと納税でありますとか、防府読売マラソンとか、そういうものを活用していこうということで、新年度からは始動はしていますけども、広報戦略室というのを構えますの

で、広報と定住政策が一緒になって総合政策の中でグリップしていこうというふうに考えております。

ですので、ふるさと納税を頂いた方には、こちらからいろんな情報をお届けすると、もらったら、その一遍こっきりというんじゃなくて、ずっとお付き合いさせていただいて、できればこっちに来てくださいと。さらに、また寄附してくださいというような活動を丁寧に行きたいというふうに思っております。

○橋本委員 ありがとうございます。そのような形で、どんどん人口の維持というのは必要だと思うんですけども、先ほど久保委員が言われたように、去年の視察でも行きましたから、結局U J Iターンで、推進室があって、そうしたら今度は住むところとか、いろんなものとか、去年も言わせてもらったんですけど、多分、市役所に地理情報システムというのが、GISというのがあったら、これ全部、担当課が違うんですけど、防府って、多分、田舎過ぎず都会過ぎずというところで、田んぼもあるし空き家もあるしと、要はフィルタリングできると思うんですよ。空き家情報のフィルタリングと耕作放棄地とか田んぼのフィルターかけてというような形で、要は、結局たらい回しにされるんじゃないかなというところがあるんで、その辺の移住とかは全部、推進室で一応コーディネートしてあげられるという形で間違いないんですかね。

○廣中政策推進課長 移住に関する相談につきまして、私どもでまず責任持って御相談をお受けしまして、それぞれの要望をまずお聞きすることが当然最初ですので、その要望に満たされるものがある場合については、当然、まずそこに的確に御案内できるようにさせていただきます。全ての要望に応えられるわけではありませんが、極力そういう形で進められるように対応してまいりたいと考えております。

○橋本委員 ありがとうございます。

そしたら次で、よろしいですかね、そのまま行って。

○高砂主査 はい、どうぞ。

○橋本委員 あと、これは、DX推進事業は何ページなんですかね。（「63ページ」と呼ぶ者あり）63ページです。ごめんなさい。これDXに関係あるかどうか分かりませんが、先ほど議会事務局に聞こうと思ったんですけど、議会事務局ではちょっとあれだったもんですから、議会のほうが今定例会から完全にこのタブレット化をされていて、ICTというのがあるんですけども、でもすごい何か変だなと思うのは、議会行っても執行部側と議会側で全然ちょっと違うなというところで、もちろん今、新庁舎建てているので、新庁舎建設に併せてこういう感じになるのかどうか、その辺の計画があればというところで、これが予算に関係あるかどうか分かりませんが、お答えいただければと思います。

○小田デジタル推進課長 質問のほうにお答えします。

ネットワークとか庁舎古いということもあって、そういった新しいのをやるタイミングがなかなかなくて、今回、新庁舎ということになりますので、今の庁舎は、もうネットワークとかがない時代に建っているものです。だから、継ぎはぎだらけで、どこかでもう敷設替えというか、そういったものが必要だったわけです。

それが今回、この庁舎になりましたので、まず環境は、今はもう有線より無線で、職員の方には、端末はノートにします。だから、ノートを持って資料を持ち回ることができるという形になりますので、ちょっとそういった形で進めていこうという計画にしております。

以上です。

○橋本委員 ありがとうございます。今議会とかみんなこれでやっていて、ちょっと違和感を感じて思ったので、計画をお聞きできてよかったです。

あと最後になりますけれども、56ページの学公連携推進事業なんですけれども、これ多分、今回ないのかなと思って、前は、大学と富海の砂の研究だったりとか、いろいろ地区に応じて、地区をちょっと発掘しようということで、富海地区とかを結構いろいろ研究されたと思うんですけど、これ予算100万円ということなんで、今現状、何もないから取りあえずつけているみたいな感じなんですかね。

○廣中政策推進課長 今、これの予算の100万円につきまして、これは山口県立大学との共同研究を行うための負担金ということになりますので、今後、山口県立大学であったり、私ども防府市のほうからの研究対象となるような事業提案がございましたら、これをまた使っていくことになります。

ただ、令和4年につきましては、大学からの研究提案がありましたけれども、担当課とのマッチング等がうまくいかなかったもので実施されなかったということになっておりますが、また、令和5年、そういうことがありましたら、この予算を使っていくこととなります。

○橋本委員 ありがとうございます。前はいろんな政策の絡みで富海の砂がすごいいいよとか研究結果が出ていたと思うんですけど、あの頃は富海ですごいやっていたですよ。今後はだから、いろんな政策の中でいろいろ研究していくということでよろしいんですかね。

○廣中政策推進課長 この共同研究につきましては、大学様からの、例えばフィールドワークとしての防府市でそういう結果を出したい。もしくは、防府市のほうから、今、防府市の持っている施策、課題を解決するために利用したいという部分がありましたらとい

うことなので、防府市の全施策が基本的に対象になりますので、マッチングができましたら実施するという形になります。

○橋本委員 ありがとうございます。

以上です。

○高砂主査 ほかにございませんか。

○松村委員 先ほどから議論になっていますU J I ターンのことですが、私どもは結構いろんな所へ視察行かせてもらって、やっぱりこういう成果を持っているところは、本当、実績として100人以上ぐらい定住させましたと自信を持っているいろいろ言われるんですけど、そこで共通して言えるのは、防府市でもやっとなるんじゃないかなと思っているんですけど、今回は県がこうやって、ちょっと対象者は若干違いますけど、上乘せ的感觉で今回やられたということなんでしょうけど。

ほかに多分、子育て支援とかで、今でも防府版のパッケージがあるけど、そういったものの紹介であったりとか、あとは空き家ですよ、今回も出ましたけど。うまく連動させて、そういったお安く住めますとかですね。ほかに何かいろいろ県産材使って家建てたらこういった補助がありますよとか、あと三世代住宅もあってとかそういった、また補助金のメニューもありますよとか、あと、例えば、これ、この前行った所だったんですけど、田園都市で、農業をやらなくても農園を家で作るぐらいのそういったパッケージがあって、それに基づいて移住してきた方には、また何十万円あげますよと、それで積み上げていくんですけど、マックス200万円とか300万円までですよとか、結構手厚いんですよ、積み重ねていくと。

要は、住む側がやっぱりチョイスしていくとか、自分が何を望んでいるかというのはまちまちだと思うんですね。せつかく地方に行くんで、ちょっと自然を味わいたいとか、農業をちょっとやってみたいとか、仕事をしながら片手間で農業をしてみたいとか、多分いろいろあると思うんですね。

だから、そういったものをやはり一元化するというか、それを提示をしようかなと考えている方に、一瞬にして、防府市はこういったことをやっていて、ぜひどうぞというようなものも必要なんじゃないかなと、そういう情報ですね、その辺のところというのは、今どうなんですかね、防府市は。

○亀井総合政策部政策推進監 ありがとうございます。まさに、そこが弱いところで、先ほど私も久保委員のほうに、ちょっとお答えしたんですけど、まさに横をかけていくということの中で取り組み始めたばかりなんですけど、見ていただかないと分からないので。大体ネットを触る方は、観光、それから定住、子育て、ふるさと納税、こういうのをワン

パックで見られて、そのまちを見られるんですけども、もちろん定住の中には仕事と住まいというのが入ってくるわけですけど、それが一つのポータルサイトというか、一つのネットで見られるというのが大事だなということで、今その話を始めたばかりで、まず横の連携をしっかりと、先ほどもちょっと時間かかるかもと申しあげましたけど、少しお話をさせていただいて、どういう見せ方が一番いいのか、それをまた行政が作ると、固い魅力のないサイトになったりしますので、そこは民間のデザインを入れたりとか、部長も申しあげましたけど、広報戦略室なんかもできますので、そこと相談しながら、ちょっと切り離れた、行政情報とはちょっとテイストが違うような形で見せられたらなというのを、ちょっと研究を始めたばかりですので、少しまた御相談しながら見ていただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

○松村委員　ちなみに、コロナ禍だったからできなかったのかよく分からんけど、お試し定住みたいなのというのは防府市はやっているんですか、やっていないですかね。

○廣中政策推進課長　そういう施策は、確かにやっておりません。

○松村委員　視察へ行ったときの私の頭の中での情報なんですけど、やはりネットが一番有効みたいですね。やはり、いかにヒットが多いところ、一般質問でも、ある議員から出ましたけど、本当にユーチューバーとかでも利用したらいいんじゃないかとか、本当に実際そういったところに乗らないと露出しないんで、うちの観光の関係でも、1,000万円ぐらいかけたけど800件ぐらいしかヒットしなかったとか、頑張っているらしいの分かっているんですよ、別にくぎを刺すわけじゃないんですが。

ただ、そういった媒体を使いながら広報していくというのは、僕は一番大切なんじゃないかなと。例えば、東京、大阪の電車のタレ広告というか、そういったのも有用だけど、それよりもやはり一番有用だったのは、やっぱりネットで、結構見てくれる。いかに見やすくするかですよね。いかに瞬時にして、今さっき私が言ったような情報が手に入るか。だから定住支援の補助金だけじゃなくて、子育て支援であったりとか、さっき言ったような、今、企業支援で、今回テレワークしやすい場所がデザインプラザのところ、今できていますから、そういった、本当に住んで働いて、防府だったらこういうすごいポイントがありますということをやって、これは働きやすい、これは住みやすい、お金ももらえるんだと、ちょっとお試しで行ってみようかなとか、そういったものも僕はつくるべきだと思いますけど。それで、よかったら実際に定住してみようと、こういう流れになってきたらいいかなと。

さっきちょっと、ほかの事業では、数字がまた変わっているんかもしれんけど、今回のUJIターンのこの補助メニューについては4名ですよ、令和2年からですね。ほかの

もカウントがひよっとしたらあるのかもしれないんですけど、やっぱり全体として定住というのを考えるべきなので、全体で、本当100とかいけるように、そういった制度とかいろんなものを、住むとか働く上において有用な情報は、やっぱり一瞬にして分かるようにしてあげたらいいんじゃないかなと。ヒットがすごい、そういったサイトとか民間企業のそういった情報とかを持っているところに働きかけて、ぜひPRしてくれと、防府市をですね、というのがいいんじゃないかなと思います。要望ですけど、よろしく願います。

続きまして、65ページになります。夜間タクシー運行支援事業でございます。半年で450万円ぐらいの予算だということだったんですけど、これあと問題は、多分、協会で作るということは、いろんなタクシー会社にまたがっているのかなと。となると、予約の仕方はどうなるんかと。例えば、夜12時になっても、昨日はAタクシー、明日はBタクシー、あさってはCタクシーだったら、どこがやっているか分からないと思うんです。何か統合的な予約をするような、そういった電話番号を作るか分からんけど、そういうのがあるんですかね。

○岡田地域振興課長 お答えします。

今ちょうどそういう話をタクシー協会のほうとしていまして、月曜日はここ、火曜日はここ、水曜日はここという固定で回したいということも伺っていまして、電話番号を一本にしたいけれども、それをどういうふうにやっていけばいいのかというのを今ちょっと研究している状況です。

電話番号が一本にならないようであれば、市広報に、何曜日はどこですよとかいう掲載をするとともに、ホームページ等での情報発信、また、タクシーのほうにきちんと掲載するとか、そういうふうに広報していきたいというふうに考えています。

○松村委員 飛ばしてやる方法があるんじゃないかなと思うんですよね。それは当然お金がかかるので、システムみたいな感じになるので、その辺もこの450万円の中に入っているんですか。入っているか入っていないか分からんけど、みてあげたらどうかなと思うんですよね。そうしたら、そういうシステムを導入できるので。やっぱり市広報とかに載せても多分見ないと思うんで、逆に、やっぱり一本にして市民に周知したほうがいいかなと。

どっちにしても6か月間やるだけでは、多分こんなのを市がやって、夜間タクシーやっているって多分知らないと思うんですよ。ちょうど終わるぐらいになって、夜間タクシーやっていたんだねという話で終わってしまうのかなと。継続していかないと定着しないので、その辺については、どう考えているのかなと思います。

それと、今さっき前段言いましたシステムの導入経費についてもみてあげたらどうかと思うんですけど、どうでしょう。

○岡田地域振興課長 システムの導入経費につきましては、今の予算の中では考えてはなかったんですけども、一応1日当たり2万5,000円という金額で想定はしています。一括して補助事業者に共同で支出をしようと思っていますので、その中で、範囲でやっていただけたらなというふうに、まだちょっと今、調査研究中ではありますけれども、一応、視野には入っています。

○松村委員 ぜひ、今回試験的ではあると思うんですけど、今後についても前向きに、もう皆さんも周知のとおりで、タクシー業界の環境は、今、大変、防府は悪い状況で、夕方とか朝ですわね、電話しても来ないんですよ。夜も来ない。だから、なかなか町なかにも出れんよねという話にもなってきますし、ひいては、防府のにぎわいがなくなってしまうんで、いろんなことにもなるので、ぜひよろしく願いいたします。

また併せて、今頃、女性とかりタイアした年配者に対して、タクシーの運転手の募集をかけて、それでもなかなか来ないんですけど、今の方策として、なかなかいい正社員の給料を払えないというところが問題なんですけども、そういった方を導入できるような施策も併せて、当局でまた考えていただきたいなと思います。要望いたします。

続きまして、これ確認です。75ページ、富海の駅舎の件ですけど、建設するのはJRがやるんですか、これは市でやるんですかいね。（「市」と呼ぶ者あり）市でいいですね。ほんならよかった。

○高砂主査 お答え。

○松村委員 もういいです。今「うん」と言われたので、それで。というのが、何が言いたかったかという、以前、大道のときにJRに丸投げして、結局、お金みんな吸い取られて、たしか5億円ぐらい積んで、お釣りが5万円ぐらいというふうな感じがするんですけど、もうああいう状況は勘弁してほしかったんで、市のほうで建てられるというのは本当にそれならもういいなということでしたといたします。

あと最後になりますけど、80ページでございます。山頭火ふるさと館でございます。仕方がないっちゃ仕方がないんですけど、しかし、造った以上は最大の効果を上げる必要があると思うんですが、今後はどういうふうに、今年度以降、考えられているのか、ちょっと総合的にお聞きしたいと思います。

○福谷おもてなし観光課長 お答えします。

山頭火ふるさと館ですけども、令和元年度から料金が無料化となりまして、あとはコロナの関係もあったので、2年度はちょっとかなり落ち込んだんですけど、令和元年度の

有料のときに比べて、令和3年度、コロナ禍の中で一応2万1,000という入館者数となっております。

今年度ですけれども、令和4年度2月末まで、11か月間の入館者数が1万6,148人ということで、前年よりも今は5,000人ほど少ない、3月はまた少し伸びるでしょうけれども、そういう状況で、ちょっとまだ伸び悩んでいるという状況でございます。

これをどうやって伸ばしていくのか、来年度は通常の企画展、今年度は山頭火生誕140年ということで、有料の企画展を76日間行いまして、2,000人ほどの入館者数、有料だということで、山頭火ふるさと館の中に入られて、有料なんだということで帰られる方も何人かいたということは報告では聞いておりますけれども、ちょっとこれが伸び悩んだところもあったので、今の数字にはなっているんですけども。

来年度以降につきましては、まず地元の小・中学校の方に、この間も、有料特別展のときもそうだったんですけども、まず、山頭火のことをよく知ってもらうために、小さい子どもの頃から知っていただきたいということで、教育委員会とかにも声掛けして、学校の授業の中で、まず市内の小・中学校の高学年以上、中学校までは、何かで授業の一環としてぜひ訪れてほしいという、そういう地道な願いをしていきたいなとは思っております。

そういう中で積み上げていく。あと、ショップの売上げとかも今年は今、約100万円近くの売上げがあるんですけども、コンベンション協会に令和3年度から管理が変わりまして、キャッシュレスを導入したりとかしてしまして、駄菓子とかはコンスタントに、単価は低いですですが売れているだとか、あとは書籍とか、山頭火のお酒とか、そういう売上げがあって伸びてはいるんですけども、やはり企画展の入館者数をぜひ増やしていきたいと思っておりますので、先ほど申しましたように、教育委員会とかにも声掛けしながら頑張っていきたいと、観光コンベンション協会と一緒に考えていきたいと思っております。

以上です。

○松村委員 分かりました。担当課としても一生懸命頑張っている姿は見えますし、今、売上げも何か100万円あってということで、いいっちゃいいんですけど、やはりどうなんですかね。今まで議員からの一般質問も過去あったんですが、「山頭火ふるさと館」という名称でいいんですけど、ほかの防府の偉人とかそういったところにも何かスポットライトを当てて、もっと楽しめるようにしたらどうなんかなど。別にお金をかけなくてもできると思うんですよね、そういったことはですね。

逆に言うたら、観光の予算に上がっていますけど、コロナ後の観光のインバウンドを図

るということで、いろいろ予算もついているじゃないですか。東京からもJALと組んで、いろいろお客さんをこっちに持ってこようといういろいろやりよるんですから。逆に、その都度、その都度の時代のはやりといいますか、例えば、大河ドラマとかあれば、またそういった方々のをやったりとか、今からどうなるか分かりませんが、ほかにもいろいろ防府の偉人にはすばらしい、楽しめるような人がかなりいらっしゃるんで、そういったものも取り入れたらどうかと思ったりもするんですけど、どうでしょうか。

○福谷おもてなし観光課長 お答えします。

まさにおっしゃるとおりだと考えております。やはり大河ドラマ、去年もやりましたけども、「鎌倉殿」ということで、あれは大江広元とか、義経が国衙跡に来たとか、その辺のストーリー性を、市民が知らないところにスポットを当てて、令和3年度の重源上人生誕900年から引き続いて、一過性に終わらせずに、同じ鎌倉時代ということでやったんですけども、そういった時流に乗りながら、山頭火についても、いろいろとそういう話題性があれば、どんどん広めていきたいと思えます。偉人の方も含めて。

あと、今、観光コンベンション協会が指定管理になっておりますので、本当に細かなところで、例えば、うめてらすに来られた方に、山頭火ふるさと館無料ですのでぜひどうですかと声掛けするとか、そういうおもてなしのところも含めて、ちょっと知恵を出していきたいと考えております。

以上です。

○松村委員 分かりました。ありがとうございました。頑張ってください。

○高砂主査 よろしいですか。

○今津委員 ちょっと12時を意識して簡単にお尋ねします。

富海の駅舎の件ですけど、本会議の答弁で、ちょっと私、首をひねったんですけども、最初、JRと協議をしたときに、JRはプレハブ程度の駅舎を造るということを言っておられて、それで一応、了解をしておったんじゃないかなと思うんですけども。今度、市がJRの土地を借りて、そして地元の人との交流の場としての駅舎を建築するという事になって、そうすると、もうその建物を建てることによってJRがプレハブを建てる事がなくなったので、JRの負担はゼロになったということと私は聞いたんですけども。

それで、その辺のところをJRといろいろと協議をして決められたんだろうと思うんですけども、JRも確かに厳しい経営状況の中でありますから、なるべく負担はしたくないということもあるのかもしれませんが、しかし、やっぱり協議をした過程で、最初、プレハブを建設すると言われた、そのぐらいの負担はJRにしてもらおうというのが、まあ常識的なところじゃないかなというふうに、私、答弁を聞いて感じたんですけどね。その

協議の状況について、ちょっと簡単に説明してください。

○杉江地域交流部長 富海駅のJRの負担ということですが、そもそも駅舎といいますが、新しいプレハブのものは、そんなには費用的にはかからないものだったです。市のほうが交流施設として建てまして、その周りの接続部分であるとか、そういったものは当然JRさんのほうにさせていただくということになっておりますので、JRさんが全く、うちのほうが交流施設に対して負担金を頂くということはないですけども、その周りのきれいに整えるものであったりするものは、JRさんのほうがされます。

以上です。

○今津委員 接続部分とはどういう部分、どういうところですか。

○杉江地域交流部長 新しい交流施設とホームとの間とかのところもございますから、そういった部分をきれいに整えるといいますか、そういうところですよ。

○今津委員 額的にはどれぐらいですか。

○杉江地域交流部長 額的には、把握のほうは、ちょっと聞いた気もするんですけども、今、明確には覚えてはおりません。ただ、駅そのものが、四辻駅とかのイメージとかでもいいんですけども、そういったものですので、そもそもが、そこまで多額の費用がかかる新しい駅舎というんですかね——ものではなかったもので、それなりの負担をさせていただいていると考えます。

○高砂主査 よろしいですか。

○三原委員 先ほどお話が出たと思う65ページの夜間タクシーの件、改めて、今回、試行的に実施されるんですけど、ここに至るまでの経緯というのは、どういう経緯があったのか教えてください。

○岡田地域振興課長 お答えします。

まず、市民の方から、団体の方から、夜間に緊急的に使用できる、利用できるタクシーというのがなかなか少ないですけども、そちらのほうに何か対策ができないのだろうかという意見がありまして、市の中でも一生懸命、福祉も含めて考えた結果、利用していただくのが救急だけではなく、通常の利用者の方もいらっしゃるということで、やはり夜間に1台もタクシーがないという体制が、移動手段がないという体制がどうか払拭できないかということ部内、庁内で検討いたしまして、モデル的に実施することに至りました。

以上です。

○三原委員 通常で利用されるという人は、どういう人が通常で利用されるんですか。

○岡田地域振興課長 すみません。ちょっと言葉が申し訳なかったですけども、やはり土日等、飲みに行かれたり、そういった方の利用というのがかなり多いとは思っています。

以上です。

○三原委員　今もちょっと出ました緊急的な利用がというのは、私も高齢者の方から何人か聞きました。「どこに連絡したらいいの」と言うので、仕方なく「救急車でしょうね」とは答えておりました。これ1台でしょう。1台だったら救急のときに連絡は取れますかね、利用できますかね。

例えば、今言われたように、飲みに行かれた人たちということで、これはまちの活性化になるんだろうけど、一番の目的は緊急利用じゃないかなと私は思っています。その点はどうなんですか。

○岡田地域振興課長　お答えします。

通常、金曜日、土曜日、週末になりますと、タクシー業界の方は稼働していらっしゃいますので、この夜間タクシー以外にも営業はされています。ただ、平日の夜間、タクシーの待機がないということで、平日の確保をどうにかできないかというところで事業のほうを設定いたしました。

○三原委員　平日であろうが休日であろうが、緊急は起こりますよね。だから、平日、私ももう少し絞ってほしいなと思っているの。というのは、やはり私も何人か聞いているから、「どこに電話したらいいの」と、年寄りで免許返納していると、車もないと、どのように行ったらいいんかねというのを聞いています。そのところもう少し、こうしなさいとかは今言えないかもしれんけど、もっとそこを、それが一番の僕はポイントと思っています。だから、いい事業だなと思いました。

だけど、これ恐らく休日とか土日とか言われるけど、平日にそういうのが重なってきたら緊急の役目はしませんよということになる。議場で、たしか、軽い病気でも救急車に連絡されることもあると、それはあったんですか、そういうことが。議場で言われたじゃないですか、救急車に使われる方もいらっしゃるよと、たしか。

○岡田地域振興課長　すみません、伺っているのが、救急車を呼ぶほどではないけれども夜間診療を受けたいという方がいらっしゃるということはお声を聞いています。

ただ、やはり緊急的な場合は、消防のほうにも確認していますけれども、救急車のほうを要請してくださいということを聞いていますので、病院に行きたい、タクシーがないとなったときには、緊急であれば救急車のほうを連絡していただけたらと思います。

以上です。

○三原委員　じゃあ、さっき夜間のタクシーがありますよと市広報等にも出すと、皆さんにお知らせする、当然だと思うんですよ。今言われたこともつけ加えとってください。緊急の場合は――緊急というのが、人によってみんな違うんですよ、その判断は。よく私、

ポスターを見るのは、「救急車はタクシーではありません」と。一般の方には不真面目に使う人もいます。だけど、おじいちゃんがちょっと具合が悪そうなけど、どうやって行ったらいいんだろうというのもある。そういうときでも、もう救急車を使ってくださいと言われれば安心して使えるじゃないですか。ぜひ、その今言われた部分もきちんとお知らせしてあげてください。

それと次に266ページ、サイクリングターミナル、これ私のちょっと勘違いかもしれません。確認です。これ指定管理者は2か年じゃなかったかなと思っていたんですけど。

○福谷おもてなし観光課長 令和3年度から令和5年度までの3か年でございます。

○三原委員 それで、指定管理者は替わられました。それで、その2か年の実績をまず教えてください。

○福谷おもてなし観光課長 令和3年度が利用者数2,409人。コロナの影響もありますけれども、前年度に比べて1,386人増えております。令和2年度までは直営でした。売上げのほうは524万2,000円となっております。

令和4年度です。これは、令和4年の4月から令和5年2月までの11か月の実績でございますが、利用者数は3,751人、売上げのほうは921万8,000円ということで、利用者数で前年比155.7%、2月の時点でですね。売上げのほうは前年比で175.8%となっております。

以上です。

○三原委員 それで、どのような方が利用されているか教えてください。

○福谷おもてなし観光課長 利用者は、基本的には合宿、大人の方も含めて合宿での利用もあります。あとは、観光で来られる方もいらっしゃいます。

合宿につきましては、令和3年度が33件、令和4年度が3月10日までの時点で50件の合宿利用があります。合宿での利用は、ほとんど県外の方という形になっております。

以上です。

○三原委員 今、合宿しか示してもらえなかったけど、ほかにもあるんでしょう、まだ。合宿が全てですか。

○福谷おもてなし観光課長 ビジネスでの利用という方もいらっしゃいます。当然、合宿以外の方での利用もございます。去年もちょっと聞かれたと思いますけど、例えば、工事関係で利用される方もいらっしゃるとは聞いております。

○三原委員 数字を教えてください。

○福谷おもてなし観光課長 ちょっと工事関係の数字につきましては、最近の確認はした

んですけれども、ちょっと細かい数字まで、ちょっと把握できておりません。すみません。

○三原委員 確かに、この指定管理者にされるときに、3年間実施して、しっかり検証をして、その後について考えたいということをおっしゃっていました。そうだったら数字をちゃんと把握しないと検証はできませんよね。しっかり検証していただきたい。数字を把握していただきたいと思います。

それと、以前、自転車の更新の話をしていましたが、自転車は、今の保有台数は何台で、それで更新はどのようにされているか教えてください。

○福谷おもてなし観光課長 自転車の保有台数は、今現在85台ということで、現在、貸出ししているのは30台ということで、レンタサイクルでは30台貸出ししております。更新については、その30台につきましての整備をやっておるといってございまして。

○三原委員 整備は当然でしょうけど、更新って、私、お尋ねしたと思う。確かに、以前聞いたとき、全く更新されていなかったと思うんですよ。恐らく更新されていると思うんですけど、どのような状況か教えてください。

○福谷おもてなし観光課長 更新につきましては、昭和56年3月に56台入って、その後、平成7年7月に15台、そして平成22年3月に14台入っての、現在の85台となっておりますので、それ以降は、ちょっと更新というか、新しく増えたということではございません。

○三原委員 平成22年は何台、聞こえなかった。

○福谷おもてなし観光課長 平成22年3月は14台です。

○三原委員 現在、令和3年度、4年度でいいんですけど、貸出し状況はどうですか。

○福谷おもてなし観光課長 貸出し状況ですけど、令和3年度は70台です。令和4年度、先月末まで、夏までで63台となっております。

以上です。

○三原委員 分かりました。もうその「サイクリングターミナル」という、これ名称は変えられないんですかね。何かそういう当初の目的からどんどん離れてきているような気がします。これ名称というのはそのまま、ずっと変えられないんですか、どうなんですか。

○福谷おもてなし観光課長 今のところは、そういう話は出ていないんですけど、確かに利用状況を見ていたらスポーツ合宿の方とかも多いし、ビジネスの方、先ほどの工事関係者の方もいらっしゃるんですけど、中には自転車で利用される方もいらっしゃることは聞いておりますが、比率的には、そこまではないのかなと思っております。確かに名称ということをお考えたら、「サイクリングターミナル」という名前がふさわしいのかどうかというのはちょっとあるんでしょうけど、今のところは、ちょっと名称の変更については出

ておりません。

以上です。

○三原委員　もうサイクリングターミナルというのは全国的になくなってきているじゃないですか。そろそろ別の形で愛称なり、そういう名称なり、もっと分かりやすいというか、今の事業実態に合ったような名称に変える頃ではないかな、頃ではなくて、もう変えるべきだと思っていますので、そここのところ、また検討をしっかりとしてください。

以上です。

○松村委員　65ページ、さっきの夜間タクシーですけど、一応、何時から何時までやる予定にしているんですかね。

○岡田地域振興課長　零時から6時までを想定しています。

○松村委員　ということは、普通のタクシーはもう6時ぐらいから営業をしているんですかね。夜は割かし、もう11時とかでやめているので、1時間ぐらいちょっとタイムラグというか、あるような感じがするんですけど、その辺についてはどうのお考えでしょうか。

○岡田地域振興課長　大体24時まで、大体どちらのタクシー業界も運行されているんですけども、2時まで運行されている会社も数社あります。2時以降6時までが、平日はほぼゼロとなっておりますので、それをトータルして零時から6時というふうに設定しております。

○松村委員　6時から営業しているんですね。

○岡田地域振興課長　はい、もう5時半ぐらいから大丈夫だそうです。

○松村委員　分かりました。ありがとうございました。もうそれはいいです。

　　ちょっともう1個だけ。海水浴場管理事業が266ページ、私、前からずっと言いよるんですけど、本当に富海の海というのは、私も結構、昔よく行っていて、気持ちがいいなと思って、すごい景色もいいしですね。だけど、ちょっと今、ここ「水路の浚渫を行います」って書いてあるんですけど、肝心要の海水浴場内の浚渫、僕、今頃は行ってないから分からないんですけど、コロナになってからは。前は本当ヘドロがすごい多くてですね、入って足ついたら、すごい気持ち悪いんですよ。海藻もすごい繁茂しててですね。だから、あれから浚渫とかされたんかなと思って、ちょっと確認です。

○福谷おもてなし観光課長　浚渫の件でございますけども、毎年、潮の流れか何かで砂が沖に流されて、今砂浜というよりも石がゴロゴロしているというような状況でございますので、ちょっとそれは今年度、何か対策を考えようかなとは思っているところでございます。海水浴場に救護所、監視員の方を設置して、けがしたとかで来る方多いんですけど、

クラゲに刺されたというよりも、石が何かこう、砂が流れていくようなことになっているみたいなので、そこの細部の整備については、ちょっと今年、考えようということになっております。

以上です。

○松村委員　ということは、今、ヘドロとかは、もうあんまりないんですかね。海藻が繁茂してから足に絡みついたりとか、ああいうのは今頃もうないんですか。

○福谷おもてなし観光課長　そのような報告はちょっと受けておりません。どちらかと言えば、石で切ったとか、岩場は石が出てきて、その辺で貝殻のあれで切ったとか、そちらのほうが多くなっております。

○松村委員　併せて言いますが、野島もすごいです。野島で、私自身、切ってですね、血が止まらんかったです、しばらく。ちなみに、こぼれ話ですけど前の市長もなんか腹切ったとか言って血が止まらんかったって言いよったですけどね。まあそういったことがないように、しっかりと海水浴場の環境の整備、よろしく願います。終わりです。

○高砂主査　ほかにございませんか。ないですか。

○橋本委員　すみません、ちょっと先ほどU J I ターンのさっきの中四国転出・転入のやつで聞き忘れていたんですけど、外国人の数というのは数字に入っているのか入っていないか。防府市の外国人のあれをお願いします。

○廣中政策推進課長　先ほどの住民基本台帳移動報告につきましてですが、外国人の移動は含まれております。ただ、先ほど申しましたように、国外から直接、転入・転出された方は対象外となっておりますので。

一応、今回の移動に関する外国人のみの増減は122人の転入超過です。

○高砂主査　橋本委員、よろしいですか。

○橋本委員　はい。

○高砂主査　ただいま、委員外議員の方から発言をしたい旨の申出がございましたけれども、これを許可することに御異議がございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○清水委員外議員　発言の御許可いただきましてありがとうございます。

ちょっと1点だけお聞きしたいんですが、先ほど久保委員から質問がありました中国新聞の記事のことについてなんですけど、これ実際、私も拝見いたしました。2月の中旬頃に、ここの今工事しているところから何か歴史的価値のありそうなものとか遺構とか、そういったものが出たでしょうかというふうな、ちょっとお聞きしたところ、何も出ていないというふうにお答えいただいたんですが、流木として処分された木が出てきたんだなど、こ

の記事から見ても分かりました。

ちょっとこのことについては聞きたいことはいっぱいあるんで、また後日、また改めてお聞きしたいんですが、ちょっと1点だけ確認させてください。先ほど、久保委員の質問の答えと重複するかもしれないんですが、確認の意味でもお聞きします。

この記事で、防府市庁舎の建て替えに伴う発掘調査で、木製のくわ先などが見つかったことが分かったというふうに書いてあるんですが、これは2年前、3年前ぐらいですかね、発掘調査をしましたが、そのときに、この木製のくわ先が出てきたということなんでしょうか。

○伊藤総合政策部次長 お答えいたします。

お見込みのとおり、庁舎建設に先立って行いました埋蔵文化財の発掘調査で発見されたというふうに聞いています。

○清水委員外議員 ちょっと分かればいいんですけど、これ発掘調査したところのどの辺りで、これが発見されたかというのを聞いておりますか。

○伊藤総合政策部次長 それについては、こちらでは伺っておりません。

○清水委員外議員 分かりました。この辺は文化財課のほうで分かっているんじゃないかなと思いますので、また、そちらのほうで聞こうかと思っております。

以上です。ありがとうございました。

○高砂主査 ほかにございませんでしょうか、改めてお伺いいたします。

〔「進行」と呼ぶ者あり〕

○高砂主査 ないようですので、質疑を終了いたします。

なお、議案第31号に対する討論、採決は、予算委員会全体会で行いますので、御了承願います。

以上をもちまして、本分科会の審査を終了いたします。

なお、総務委員会及び予算委員会総務分科会といたしましては、本日が今年度最後の会議となります。執行部の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

また、定年により本年3月31日付で退職される方がいらっしゃいますので、委員の皆様にお知らせするとともに、長年にわたり市政の発展に尽くしてこられたことに対し、心から敬意と感謝の意を表したいと思えます。

それでは、御紹介いたします。総合政策部長の石丸泰三さんでございます。ここで総合政策部の石丸部長より御挨拶をいただきたいと思えます。

○石丸総合政策部長 貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

議会に出させていただきますので、いろいろお話を聞かせていただいて、私、非常に勉強

をさせていただきました。最後の7年間は庁舎建設の担当ということになりまして、ようやく基礎工事を今やっているというようなどころなんですけれども、様々ないろいろと、さっきも文化財の話もありましたけれども、いろいろなことがあります。後輩もしっかり育てておりますので、しっかりと引継ぎをしておこうというふうに思っております。

皆様には、本当に長い間お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

○高砂主査　ありがとうございました。退職される石丸部長におかれましては、長い間、本当に御苦労さまでございました。今後とも、市政のよき理解者として御協力をいただくとともに、御健勝、御多幸を心から御祈念をいたします。ありがとうございました。いま一度、拍手でお送りしたいと思います。（拍手）

それでは、執行部の皆様は御退席いただいて結構でございます。大変お疲れさまでございました。

〔執行部退席〕

○高砂主査　それでは、御退席中ではございますが、委員の皆様、ただいまから総務分科会として予算委員会全体会に報告する案件について御協議いただきたいと思います。予算委員会全体会で集中審議するため、議案第31号の所管事項で修正を必要とするもの、その他重要と思われる案件がございましたら御意見をお願いいたします。

〔「進行」と呼ぶ者あり〕

○高砂主査　ございません。では、報告案件はなしということでよろしいですね。

以上をもちまして、本分科会に委嘱されました案件についての審査を終了とし、閉会いたします。

午後0時 9分 閉会

防府市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

令和5年3月14日

防府市議会予算委員会

総務分科会 主査 高砂 朋子